

子どもの健康と病気の予防⑪

ー ヒトメタニューモウイルス感染症 ー

小宅医院 小 宅 民 子

ヒトメタニューモウイルス（hMPV）は、RSウイルスと似た呼吸器感染症を引き起こすウイルスです。ほとんどはかぜで終わりますが、乳幼児や高齢者では、気管支炎や肺炎など重症化することがあります。ウイルス性呼吸器感染症の原因として、小児の5～15%といわれています。潜伏期間は4～6日です。飛沫感染（せきやくしやみなど）や接触感染（ウイルスのついた手や鼻をさわるなど）でひろがります。1年を通して流行しますが、3月～6月に多いといわれています。生後6ヶ月頃から感染し、2歳までに50%、10歳までにほぼ100%が感染するといわれています。また、1回の感染では十分な抗体がえられず、小児期には再感染をくりかえすことがあります。成人も感染の可能性はあります。主な症状は咳、鼻水、発熱などのかぜの症状です。1週間ほどで良くなります。重症化して気管支炎や肺炎になる

と、高熱、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューいう）や呼吸困難を伴うようになります。診断は鼻の中に綿棒を入れおこなう迅速診断があります。10分ほどで結果がわかります。ただし、この検査は6歳未満でレントゲン検査や聴診所見で肺炎が強く疑われる場合のみ適応となります。

hMPVに対する特効薬はなく、対症療法（症状を和らげる治療）をおこないます。水分補給、睡眠、栄養、保温など気をつけ、安静にして回復を待ちます。

また、hMPVに対するワクチンはなく、感染予防が重要です。マスクの着用、手洗い、うがい、子どもが触れるおもちゃやドアノブなどはアルコールなどで消毒しましょう。登園や登校の明確な基準はありませんが、咳などの症状が安定した後、全身状態が良ければ登園、登校は可能です。

ヒトメタニューモウイルス感染症 5つのポイント

- 潜伏期間は4～6日、飛沫感染や接触感染でひろがる
- 主な症状は咳、鼻水、発熱など
- 重症化すると気管支炎や肺炎になることがある
- 特効薬はない（水分補給、安静が重要）
- ワクチンはなく、感染予防が重要